

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271402051		
法人名	有限会社ナーク		
事業所名	グループホーム小浜きたの	ユニット名	海の家
所在地	長崎県雲仙市小浜町北野1048-2		
自己評価作成日	2025年 3月 1日	評価結果市町村受理日	2025年 3月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyoosyo_index=true
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2025年 3月 17日	評価確定日	2025年 3月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「老いても障害を持っていたても自分らしく当たり前に普通に明るく暮らしたい」を基本にグループホーム小浜きたの独自の理念を定めている。地域包括ケアシステムの中で日々地域密着型サービスの意識や役割を考えながら思念を実行・実践できるように利用者主体の考えの中で、思いやり、心配り、優しさを込めた言葉かけ等今あるべき姿・あってはならない姿を常に振り返り、生活支援パートナーの役割を持ち「なかよく暮らそう」を合言葉に明るく元気で素直な気持ちを第一に代表者、管理者及び職員が共に社会や家庭環境への自立支援を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

“グループホーム小浜きたの”は2004年9月1日に開設し、2025年に21周年を迎えている。運営者、職員、利用者の方々や家族、地域の方々とともに歩んでこられた21年であり、運営者の方々は感謝の思いで過ごされている。開設時から日々の食事を大切にされており、代表（栄養士）と職員が協力して栄養バランスに配慮した献立を作られている。郷土料理等とともに、1日と15日はお赤飯を楽しまれ、職員手作りのおせち料理、ホームの庭の柿で干し柿づくり、敬告会での“そうめん流し”、ミニオードブル等も好評である。カロリーの過不足や栄養の偏り、1日1500mlの水分摂取に留意しており、誤嚥防止のとろみ食・きざみ食・ペースト食・高カロリー食・高血圧症食・糖尿病食・心臓病食等とともに、経管栄養対応の食事療法も取り入れている。隣接する系列の有料老人ホーム「太陽の丘」でカラオケや体操などを楽しまれる時もあり、敷地内の畑で野菜の収穫も楽しまれている。“代表代理”である歯科医師の指導も有難く、口腔ケアの大切さを職員全員が理解しており、ご本人の習慣や有する力を活かしながら、食後のうがいや口の中の手入れの支援を続けている。医師や看護師と24時間の連携もあり、終末期ケアも行われている。今後もアセスメントと介護計画を大切に、理念である「老いても障害を持っていたても自分らしく当たり前に普通に明るく暮らしたい」を日々のケアに繋げていく予定である。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）		※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印		項 目		取り組みの成果 ⇩ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、 不安なこと、求めていることをよく聴いてお り、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと 過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで 暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている（参考項 目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで 生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ 出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に 応じた柔軟な支援により、安心して 暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意識や役割を考えながら理念を管理者等と職員は共有して意識付けしていくために会議等日々のなかで話し合い実践につなげていくよう努力している。	開設時に作られた「老いても障害を持っても当たり前前に普通に明るく暮らしたい」という理念と併せ、『明るく元気で素直→勇気、情熱、責任感、使命感→連携して弱者を支える→実行、実践→人々の絆よりどころ→夢＝目標＝希望なかよく暮らし→幸せを作るグループホーム小浜きたの』も理念として捉えている。家族との面会もでき、利用者と職員が家族のように笑って過ごせるように努めてこられ、毎日の楽しみ（カラオケ）や役割を増やすようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域から孤立することなく近所づきあいや地域の活動地域住民との交流に積極的に行いたい。去年同様チョイソコの送迎サービスのスポンサー継続している。	自治会から回覧板が届き、地域の方とご挨拶をしている。ホーム周辺（神社）の掃除を継続し、自治会主催の毎年の鬼火に、職員がお札を持参して行かれている。2022年度から地域の文化祭が再開し、利用者で作成した貼り絵（花火）を出展し、利用者の方々も楽しく見学することができた。地元の方のお足湯にお連れしたり、地元のスーパーで買い物を楽しまれている。	今後も地域のドライブを楽しみながら、車中からの桜の花見や、神社のお祭りに出かけたり、子ども達とのビデオ交流やオンラインでの交流などを楽しく検討していく予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の実績を生かし利用者への日常生活を実践し高齢者社会の暮らしに役立たすことがないか話し合う、雲仙市商工会に入会中、島原半島連絡協議会の中で他事業所とのつながり確かめる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では報告や情報交換にとどまらず各委員から率直な意見をいただきケアの質の向上に積極的に活かしていきたい	2020年3月（コロナ禍）から書面会議になり、書面会議の際は委員の方々に電話で意見を聞き取り、資料に記載していた。2024年から「太陽の丘」に集まって開催できおり、利用者の生活や行事内容、職員の研修受講状況、外部評価結果、災害対策等を検討し、火災予防のアドバイスを頂いている。地元の方から「小浜に複数の神社があること」や、「お祭りの情報」もいただいております。参加できる方法を検討していく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で報告し取り組み報告している。半島の会長の役目で他事業所と協力し研修など取り入れている	2023年度・2024年度の2年間、代表が「島原半島グループホーム連絡協議会」と、「雲仙市グループホーム連絡協議会」の2つの会長を務めてこられた。2025年度・2026年度も代表自ら立候補し、「雲仙市グループホーム連絡協議会」の会長を務める予定であり、災害対策やグループホームの「食事調査」等も行っていく予定である。行政からの依頼で会員制乗り合い送迎サービス「チョイソコ」のスポンサーも継続し、敷地内に停留所を設けている。管理者が支所を訪問し、感染関連の情報を頂いており、介護職の人材確保のために、行政と共に「福祉は楽しい」事を子ども達に発信していきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「どんなことがあっても拘束は行わない」という考え方を第一に安全を確保しつつ自由な暮らしの支援に取り組む。全職員一丸となって情報を共有している。	介護職の仕事を第一にせず、利用者を第一に、優しい見守りや声かけを行うように努めている。“身体拘束の排除のための取り組みに関する理念及び方針”があり、“身体拘束・虐待防止委員会”で「身体拘束・虐待を行わない」事を共有している。運営推進会議でも研修報告を行い、「言葉によるネグレクトは気付かないうちにしている可能性もあり、職員同士で声を掛け合う」ことを共有し、実践に繋げるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のミーティングや勉強会等で取り入れ虐待行為に関する自覚を持ち法令遵守などに向けた取り組みをおこなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員のミーティングや勉強会等で全職員の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書で事業所の役割を明確に説明し契約改定時は説明する。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員や事業所側から意見を積極的に聞く努力や場面を作り意見や苦情などを前向きに受け止め活用できるように努めていく	感染状況に応じた面会を行っており、玄関や窓越しで対面できるよう工夫している。面会時や電話、LINE、ホームページ等で暮らしぶりを報告し、要望を伺っている。面会時にタブレット内の写真を見ていただく機会も作られており、今後は「ホーム便り」を再開し、日々の写真等を載せていきたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のミーティング勉強会等で代表・管理者は要望や意見を聞くよう日頃から声掛けしている。運営の継続をしている。	代表・代表代理・管理者は職員個々の能力が発揮できるように努めている。職員は素直な方が多く、個々の良さを引き出し、「利用者第一」のケアに繋げている。職員同士の助け合い精神も強く、働きやすい環境が作られている。2015年から続けている「活力朝礼」で、「職場の教養」と言う本の読み合わせを行い、「人間としての生き方」を学ぶ機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた声かけや支援等は職員に声掛けしている。職員内の労働環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成は重要であり事業所内外の研修に参加し知識を身につけていただいているのを支援する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲仙市連絡協議会などでお互いの意見交換会や事例をを通じて介護現場によりよいケアの向上を目指している		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人が困っている事には声を聞き、利用者や家族との思いを受け止め安心して信頼関係をきづいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や求めている事を理解しどのように対応できるか話し合いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況に応じて対応可能か他の職員や家族と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の情報共有しおだやかに生活できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を伝えながら家族や職員は本人の思いを寄り添うように協力関係をきづけるように支援する。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人間関係や地域とは関わりがすくなくならないように買い物などでのあいさつに努めている。	生活歴をアセスメントしている。利用者同士が同級生だった方もおられ、日々の生活で談笑されている。家族と玄関で面会を行い、希望に応じて家族と一緒に自宅の仏様参りをされている。コロナ以前は近所の方等も来て下さり、馴染みの美容室等にお連れしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の情報を申し送りノートでの共有し朝礼でも口頭で伝えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対象はありませんが必要な支援はできるように努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	以前の暮らし方などは把握して本人と話しながら対応している。	利用者の思いや意向を大切にされており、日中（入浴時）や夜勤時等に、ゆっくりお話を伺っている。意向の把握が難しい方は、ご本人の表情やしぐさを丁寧に観察し、職員間で共有しており、ご本人が心穏やかに過ごして頂けるケア方法を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域の中でこれまでどのような関わりを持ち、どのようなサービスをうけたかを把握し、本人の全体象を知る			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族などからできる情報やできていたことはきいて取り入れている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよい生活ができるように課題をチームで出し合い計画の見直しなど行っている	日々の健康管理や重度化予防に努めており、体調維持に繋げている。利用者の状態を客観的に把握し、職員同士での意向やアイデアを計画作成担当者に伝え、介護計画を見直している。医師や歯科医師、看護師からのアドバイスもあり、3表（日課表）に24時間のケアと留意点を記入しており、今後も更に3表に留意点を増やしていく予定である。	①今後もアセスメント用紙の見直しを行うとともに、アセスメントに「症状（人体図と症状）」「ADL」の詳細、「一部介助」等の詳細と介助理由、「できそうなこと」「各活動の要望」「行動障害と原因」「解決策（ケア内容・リハビリ内容等）」等を増やしていく予定である。 ②アセスメント内容を深め、アセスメント内容と介護計画の整合性を整えるとともに、ご本人にわかりやすい表現で記載していく予定である。 ③今後も更に、家族の方々と介護計画の話し合いをしていく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や気づきにもとづき見直している。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに応じてサービスやケアに活かしている。足場などで体感の向上に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアマネ、居宅、消防、郵便局、美容師の他の力を借りて援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も変更などせず希望聞きながらいざの時は近医の先生にきていただいている	職員の観察力もあり、早期対応に繋げるように努めており、医療連携看護師が職員に医療面の指導を続けている。内科医の往診（月2回）、歯科医師の往診（週2回）、歯科衛生士（週1回）の訪問があり、24時間体制で医療連携看護師に相談できる。メールやLINEで動画や写真による症状の報告もでき、医師や看護師からアドバイスを受けている。受診は職員が同行し、家族が同席される場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早い段階で気づき医療、看護師の指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のストレスの負担など考慮しながらSWとの連携などで協力関係に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医との連携を行い家族にも説明し職員とも共有し支援している。	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者・家族などと早い段階から話し合いをしている。ホームでできることを十分に説明しながら方針を共有し、かかりつけ医の指示のもとで取り組まれており、「ここで最期まで」「最期は病院で」等の思いを確認している。昼夜ともに看護師に連絡でき、必要時は点滴も行われ、協力医は夜間の往診も可能である。栄養・水分・排泄・清潔のケアとともに、温かい眼差しで寄り添い、家族と一緒に誠心誠意のケアが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署とのAEDや救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	日々の訓練の中で職員で訓練の共有を行い利用者様の安全を守るという意識をもち火災を未然に防ぐ	コンセントの埃チェックと掃除等を日々行うとともに、地震や津波等の対策マニュアルを廊下に掲示している。「山ユニット」は2階にあり、「布団」を使って階段を下りる訓練をしているが、小浜消防署の講義を受け、今後は更に「毛布」を準備し、階段を下りる際に活用していく予定である。災害に備えて水や食料、野菜や米、各種食品、マスク1000枚等を準備し、湧き水も利用できる。太陽光発電も設置し、緊急時に備えている。今後は更に2階からのスロープの設置を検討しており、災害時の安心対策に繋げていきたいと考えている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員がプライバシー確保について具体的に確認し合う。	代表は職員に、「介護してあげる」ではなく、「させて頂く」姿勢や、「優しさを言葉に出して」等を伝えており、ユマニチュードを考慮した介護も心がけている。職員が考えた「丁寧な介護」を、主任が一枚にまとめており、毎朝、職員が読まれている。丁寧な言葉遣い、優しい心配り、寄り添いの介護に努めており、今後も利用者に合わせた声のトーンや口調に配慮する予定である。「個人情報などを他では漏らさない」「秘密保持」を職員会議で共有している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が言葉では十分に意思表示ができない場合であっても表情や全身での反応を確かめながら利用者の希望や好みを把握していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を見守りながら、その働きや状態にあわせて適切な関わり方をし、1日の過ごし方を考えながらかえている。健康王国のエクササイズ導入し利用者様も行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員側の価値観や一方的な支援でなく、個性・希望・生活歴に応じて個別に支援していく		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を味わいながら利用者にとって、食事が楽しいものになるように支援している。	利用者の方々の「嗜好調査」を行い、献立を決めている。代表（栄養士）と職員が相談し、栄養バランスを考えた四季折々の料理が作られ、1日と15日の昼食はお赤飯である。“小浜ぎたのオリジナルメニュー”を考案したり、郷土料理（小浜ちゃんぽん等）を楽しまれ、職員も同じ食事を一緒に食べられている。利用者も買い物に行き、もやしの根取り、畑で収穫した玉ねぎ等の皮むき、テーブル拭き等もしてくださる。こだわりの“ソーメン流し”も好評で、敷地内の柿を収穫し、干し柿作りも楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や咀嚼く、習慣に応じた支援をしている	カロリーの過不足や栄養の偏り、1日1500mlの水分摂取に十分に注意を払い職員全員が知識や意識を通して支援している。誤嚥防止のとろみ食・きざみ食・ペース食・高カロリー食。高血圧症食・糖尿病・心臓病・腎臓病・肝臓病食・脾臓病食、経管栄養対応の食事療法を取り入れている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、口の中の手入れは本人の習慣やある力を活かしながら、食後のうがいや口の中の手入れの支援をしている。週2回歯科医師及び歯科衛生士の指導のもとで積極的に職員全員が口腔ケアの重大さを把握し清潔を保持する。義歯の調整虫歯等の治療も歯科医師にお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し利用者の様子から、敏感に察知し、身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助をしている。トイレでの排泄を大切にしながらリハパン・尿取りパッド類も本人に合わせて検討している。	トイレでの排泄を大切にされており、必要に応じて時間誘導している。排泄が自立し、布の下着を着用する方もおられる。テレビを見ながら失禁予防体操を行い、拘縮予防のためのリハビリを職員が行い、失禁が減った方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに一日の暮らし全体の中で、食事・排泄・活動状態等を見直し、自然排泄を促す工夫を個別にしている。排便チェックは記録に残している。排便が無い時は下剤等使用・腹部マッサージも取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したい日、時間に合わせて入浴して頂いている。	夏は週4回、冬は週3回入浴できている。入浴好きな方が多く、職員との会話を楽しまれ、肌の弱い方は自分のボディシャンプーを使用し、できる範囲は自分で洗われている。秘湯巡り等の入浴剤とともに、職員の自宅の庭の柚子を湯船に浮かべたり、菖蒲湯を楽しまれており、今後も小浜の温泉をホームに運び、温泉で手浴、足浴などができればと考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の流れの中で利用者のその日の活動状況等ストレスの状態等の把握をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態の経過や変化等に関する日常の記録を医療関係者に情報提供することにより、治療や服薬調整に活かしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年齢を重ねたり、認知症が進む過程で楽しみ事や役割の場面をうまくつくれないため、体で覚え込んだ記憶はそのまま残っている事が多く、見ているだけでの参加も楽しい気持ちになったり活力が湧いてきたりするよう働きかけ行動力を引き出す		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物支援時好きな物を購入したり、庭にて散歩したりしている。	週2回は外出されており、ホームに隣接する「太陽の丘」でレクや体操をされたり、ホーム周辺を散歩し、日光浴をされている。庭園を造っており、庭の散歩時に草花等で四季を感じていただいている。初詣は橘神社にお連れし、季節に応じて大村菖蒲公園、唐比の蓮園、雲仙ミヤマキリシマ見物、雲仙仁田峠の紅葉狩り等を楽しまれている。病院受診の際にドライブする機会もあり、地元の足湯を楽しまれている。コロナ以前は職員と外食（ジョイフル等）に行かれる方もおられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を所持してもらったり、買い物に行く時には本人が直接支払ったりする事を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話しやすい様な雰囲気づくりや職員からの声かけを行うと共に、会話が他の利用者に聞こえない様電話の設置場所を工夫している。利用者の希望に応じて手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けや家具の配置は、利用者と一緒に考えて自室の環境を整え、快適で清潔な空間作りに取り組む。	季節の飾り付け（チューリップ・桜など）の作品作りを楽しまれ、利用者の方が生けた花を飾られている。換気は日に5～6回行い、掃除も徹底しており、LED照明は明るく、電球が長持ちしている。利用者同士の関係性に配慮した座席を工夫し、リハビリの目安用に廊下の手すり近くに「〇〇m」等の距離を表示している。2階の「山ユニット」では3名のデイサービスを利用する方もおられ、2階の神棚に手を合わせる方もおられる。両ユニットとも体操や風船バレー、洗濯物たたみとともに、新聞やチラシを読まれたり、他の利用者と歌を唄われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事業所内のちょっとした空間を活かして、居場所となるスペースを数か所つくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス・写真や思い出の品々等を持ち込んでいただき、又持ち込みの少ない方には職員と本人が相談しながらホームの品物も提供し温かい雰囲気を醸し出すように努めている。	ベッドは備え付けで、居室の温度管理や換気も適宜行い、加湿器も使用している。テレビ、タンス、寝具、お好きなぬいぐるみ等を持ち込まれ、家族等の写真を飾られている。ベッドで過ごすことが多い方は、ベッドを背上げた目線に誕生日の色紙を貼られている。居室で“お経”を読まれる方もおられ、どこかに置かれた“経典”を職員が探して手渡している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、一人ひとりのわかる力を見極め、必要な目印をつけたり物の配置に配慮している。		